

子どもの権利 ニュースレター 第2号

令和5年10月発行



第2回ワークショップを開催しました！

石狩市が子どもの過ごしやすいまちになるように、子どもの権利条例の制定について検討しています。石狩市に住む子どもとおとなの意見を取り入れるため、子どもの権利について学び・考えるワークショップ（第2回目）を令和5年10月1日（日）に開催しました。

石狩市の子どもを取り巻く現状と課題を学ぶ

第2回ワークショップでは、石狩市の子どもを取り巻く現状と課題を「子どもの権利の理解」「子どもにやさしいまち・居場所（家庭、学校、地域）」「意見表明・まちづくりへの参加」「悩みを抱えた子どもや家庭を支える環境」の4つのテーマで整理し、石狩市の子ども・子育て世帯の状況や、石狩市の子ども・子育て世帯に対する支援や取組について学びました。

石狩市は子どもにとってどんなまち？ - 意見交換・発表 -

グループごとに、「子どもの権利の理解」「子どもにやさしいまち・居場所」「意見表明・まちづくりへの参加」「悩みを抱えた子どもや家庭を支える環境」の4つのテーマに沿って、石狩市の子どもを取り巻く現状と課題に対して、気づいたこと、思ったこと、大切に思うこと、実際にはどうなのかをグループ内で確認しました。また、現状と課題に対しては「どうしたらもっと良くなるか」などのアイデアも出されました。グループの中で出された意見の中で大切だと思ったことを3つ選び、グループのみなさんと「体全体」を使って大切なポイントを発表しました。

体全体を使った表現は札幌で活躍中の役者の「もじゃくん（田中春彦さん）」が教えてくれました。みんなでコミュニケーションを取りながら、大切だと思ったこと3つを表現しました。▼



第2回子どもの権利を考えるワークショップ
令和5年10月1日（日）
10:00～12:00
参加人数：子ども6名、おとな7名

第3回～第4回ワークショップの参加者を募集中！

石狩市の「子どもの権利条例」がより良い条例となるように、より多くの市民のみなさんの意見を反映させたいと考えています。第3回～第4回のワークショップについても引き続き参加者を募集しています。ぜひご参加ください！

開催日 第3回 11/12(日)・1/21(日)
(いずれも10:00～12:00)

会場 花川北コミュニティセンター
(花川北3条2丁目198-1)

申込・問合せ 子ども政策課（担当：齊藤） 電話：72-3631・FAX：75-1340
E-mail:k-ssk@city.ishikari.hokkaido.jp

申込締切 11/6 月
申込フォームはこちら

意見交換の結果

子どもを取り巻く現状と課題 大切なことを体で表現！

Aグループ



①場はたくさんある！まず知ってもらうことが大切
どこに相談したらいいか知りたい



②子どもたち一人一人の好きなコト・モノを知って、
それぞれにあった居場所をつくる



③学校の授業で「子どもの権利」について学ぶ
遠足で各支援施設に行ってみる

Bグループ



①子どもの権利をゲーム感覚で学び、周囲に伝える



②もっと身近な自由に使える居場所がほしい



③「権利の木」のようなツールを、目につきやすい
場所に掲示する

※権利の木とは：子どもが自分が思う「権利」を葉の形をした短冊に書いて飾り、みんなが思う権利を見て学べるツール。

石狩市の子どもを取り巻く現状と課題や、それに対するアイデアなどを話し合い、「大切だと思ったもの」3つを体全体を使って発表しました。言葉の意味をどう体で表現したらみんなに伝わるかを考え、グループのみなさんと表現しました。その様子をイラストにしてみました！

子どもの権利への理解

子どもの権利を知っている石狩市民は少ないようです。子どもの権利をいろんな人に知ってもらうにはどうしたらよいでしょう？



現状

- ・おとなの方が子どもの権利を知っている人が少ない

アイデア

- ・新聞でお知らせする
- ・日常の親子の会話で伝える
- ・ゲーム感覚で子どもが学んでおとなに伝える

おとなにも子どもの権利について伝える



現状

- ・「子どもの権利」というタイトルではYouTubeでも見ないかも…

アイデア

- ・ユーチューバーに伝えてもらう
- ・YouTubeの広告で流す

子どもたちが見るTikTokやYouTubeで伝える



学校の授業で学べると良い

現状

- ・子どもの「権利」と聞くと難しい感じがして、自分(子ども)には関係ないと思ってしまう

アイデア

- ・学校の遠足などで子どもの権利を支援する施設を見学する
- ・先生に子どもの権利を学んでもらう
- ・道徳の授業で子どもの権利を勉強する
- ・学校での出来事と子どもの権利を絡めて先生が教える

意見表明・まちづくりへの参加

自分の思ったことを友達や親、学校に伝えることができますか？



現状

- ・小学校で児童に「どんな学校にしたいか」を聞くアンケートをとっている
- ・遠足や修学旅行で何をしたいか聞いてくれる
- ・学校はわりと意見を言いやすい環境である

学校で子どもたちがどうしたいか聞いてもらう機会がある



現状

- ・意見を出すのは難しいというイメージがある

大切なこと

- ・こうだといいな、こんなほしいな、と思うことを声に出せることが大切
- ・意見表明の場で、難しいことを言えなくてもいいと思うことが大切

意見することが難しいというイメージを無くす



現状

- ・親が忙しいと自分のことを話せない
- ・おとなも時間がないと、子どもの話を聞いてあげられない

大切なこと

- ・子どもの意見を聞いてあげる環境を作るのが大事
- ・親が子ども一人一人と向き合う時間を作ることは大切

家庭で自分の意見を言う機会が少ない



現状

- ・あいぼーとは子どもが何をやりたいか職員が聞き、運営している
- ・お祭りやイベントなど、子ども主体でチャレンジできる環境がある

子どもの意見を聞いて運営する子どもの居場所がある

子どもにやさしいまち・居場所

子どもたちが求めている居場所はどんなところでしょう？どんな居場所なら行ってみたい？



現状

- ・児童館や図書館が遠いため、あまり行かない
- ・歩いて行ける範囲にあったら利用したい
- ・高校生が遊んだり、勉強できる場所がない

身近なところに子どもの居場所がほしい



現状

- ・習い事で忙しく、遊ぶ時間がない
- ・学校で決められた門限が早いので、あまり遊べない

自由な時間があまりない



子どもたち一人一人の趣味に合った自由に使える居場所がほしい

現状

- ・アウトドア派の子もいれば、インドア派の子もいる
- ・校区外に遊びに行く
- ・友達の家で集まってゲームをして遊ぶ

こんな居場所があったらいいな

- ・アウトドア派もインドア派も楽しめる施設がほしい
- ・プログラミングやドローンなどの最新技術が体験できる施設があると良い
- ・機能を限定しないで使える自由な場所がほしい
- ・好きなものを持ち寄って遊べる場所がほしい

悩みを抱えた子どもや家庭を支える環境

悩んでいたり、元気のない友達がいたらどうしていますか？



現状

- ・悩んでいる子がいたら話を聞いてあげる
- ・まずはそっとしてあげる
- ・どうするかはケースバイケース

悩んだり元気のない友達は様子を見て対応する



現状

- ・悩んだ時にどこに話していいかわからないし、知らない
- ・悩みのある子どもや家庭を支える環境は、石狩市にたくさんあるが知られていない

支える環境はたくさんあるが知られていない



現状

- ・子どもの問題に合わせて学校へ専門家派遣する制度がある

アイデア

- ・学校から子どもへ「一人で悩まないで」と伝える
- ・先生も悩ましいはじめの対処法などは学校全体で情報共有すると良い

子どもも先生も一人で悩まない



アイデア

- ・どうしても学校に行きたくなければ、学校に行かない権利もある
- ・フリースクールなど、場所を選ばず学べることを子どもに教える

学校に行かない権利もある